

バス利用者を対象としたアンケート調査結果見える化版

本アンケートは、都留市管内を走るバス路線を利用する皆さんを対象に、バスの利用実態を把握するために本年2月に実施しました。アンケートの調査結果報告書から抜粋し、見える化版として作成しました。

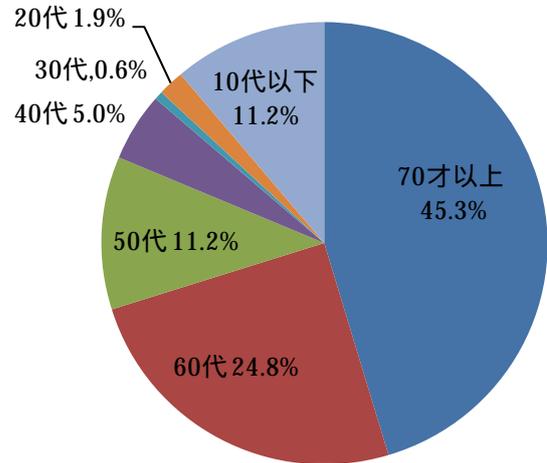
(アンケート調査実施期間：2/1～2/28 回収数：161)

資料 2

年 代 (調査報告書 2 ページより抜粋)

選択肢	回答数	%
1 . 70 才以上	73	45.3%
2 . 60 代	40	24.8%
3 . 50 代	18	11.2%
4 . 40 代	8	5.0%
5 . 30 代	1	0.6%
6 . 20 代	3	1.9%
7 . 10 代以下	18	11.2%

(回答者 161)



【調査結果】

回答者の年代比は、「70 才以上」が 45.3%と最も多く、「60 代」を含むと 70.1%、7 割が「60 代以上」の方の利用となっています。

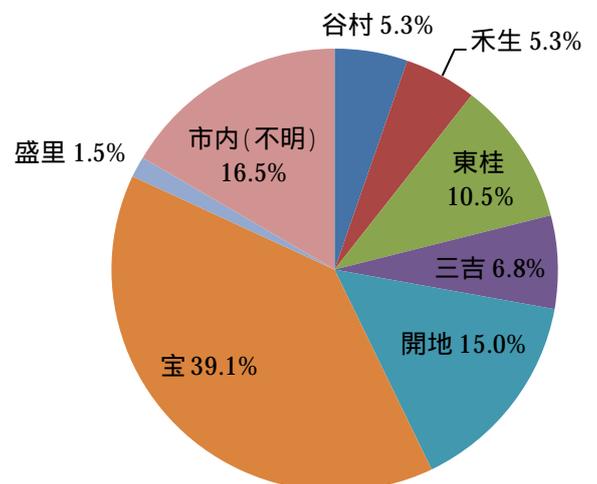
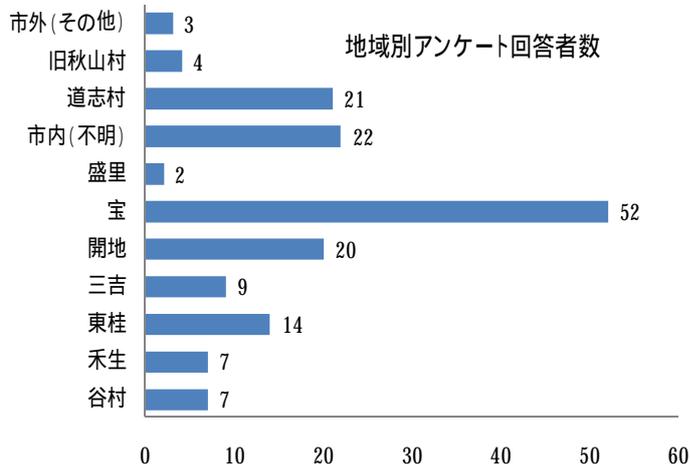


これから何が見えるか

バス利用者の 7 割が「60 代以上」の方ということは、車の免許がないなど交通弱者であることが推測できます。今後、高齢化社会が更に進むことが予想される中、地域の公共交通はなくてはならないものではないでしょうか。



地 域 (調査報告書 4 ページより抜粋)



【調査結果】

「市内」では、「宝地域」が39.1%と最も多く、年間の利用者数でも宝鉾山線(33.1%)が最も多くなっています。「市外」は、「道志村」が75.0%で、都留市内の高校へ通う学生が主となっています。



これから何が見えるか

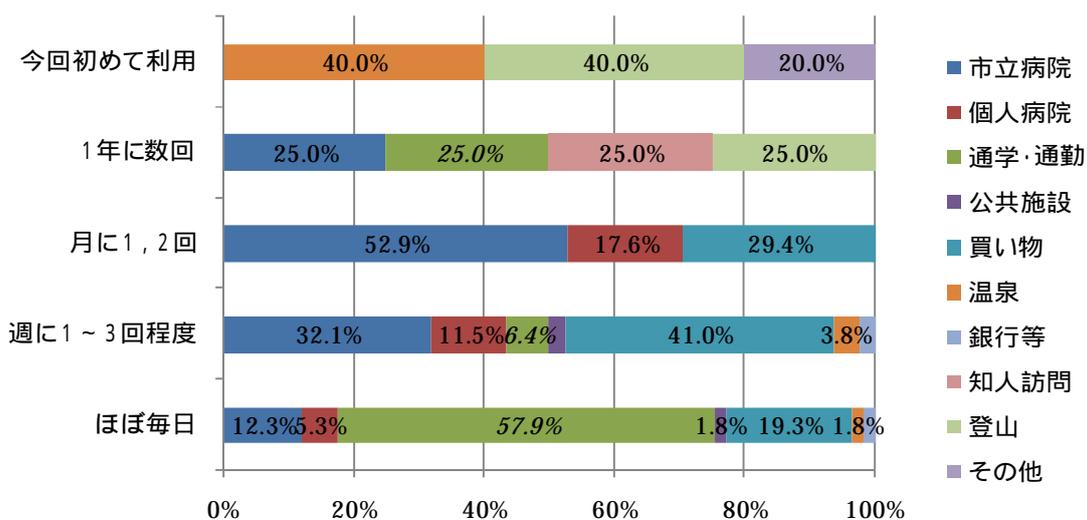
21年度の全体の利用者数は44,285人、そのうち宝鉾山線が14,662人の33.1%を占めており、宝地域にはバスは欠かせないものであると推測されます。また、宝地域から中学へ通うスクールバスの利用は、21年度3学年で100名となっており、高校へ通うようになると親の送迎が主となっており、利用者増を図るには、高校生が乗る時間帯などの検討も必要であると考えられます。

全国の事例

京都府京丹後市では、「交通まちづくり」の推進として、「どこまで乗っても運賃200円」と銘打ち、見事に高校生を中心に利用者が増え、18年度利用者数17万3,939人から21年度32万8,486人の15万人以上の利用増となった。高校生への満足度調査を実施したところ、「マイカー通学からバス通学になり、保護者の負担が減った」や「高校進学時での高校の選択の幅が広がった」などの声が寄せられた。

バス利用状況（調査報告書5ページより抜粋）

問1 バスをどの程度利用しているか。×目的



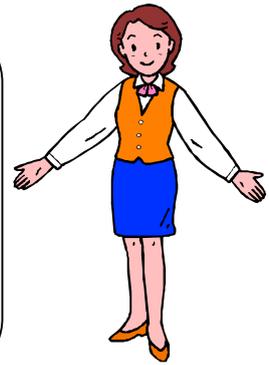
【調査結果】

「ほぼ毎日」では、「通学・通勤」が57.9%で最も多く、「週に1~3回程度」では、「買い物」が41.0%で最も多く、「月に1,2回」では、「市立病院通院」が52.9%で半数以上を占めています。



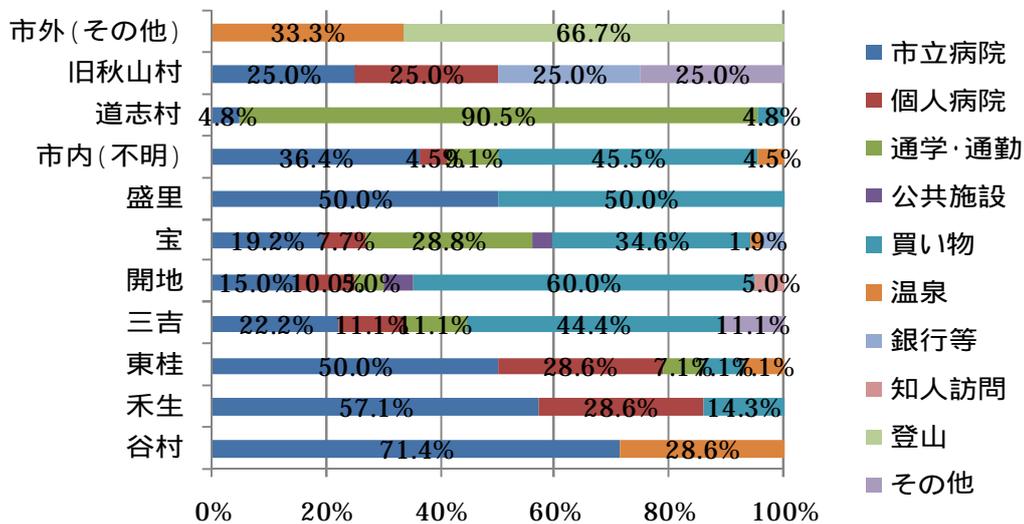
これから何が見えるか

「ほぼ毎日」バスを利用する人＝利用者増世代と考えると、学生の利用促進がバス運行の活性化には重要であることが伺えます。また、「週1～3回程度」利用では、「買い物」が最も多いことから、生活の足の確保が必要であることが伺えます。高齢者の方の足の確保を図ることにより、いきいきとしたお年寄りが増え、医療費削減など目に見えない部分での効果が公共交通にはあることが考えられます。



バス利用の目的（調査報告書8ページより抜粋）

問2 バスを主にどのような目的で利用しているか。×地域



【調査結果】

バスを主にどのような目的で利用しているかを「地域」ごとの割合で見たところ、それぞれの地域で目的が違っており、住民ニーズは多様であることが伺えます。



これから何が見えるか

それぞれの地域で目的が違うということは、地域毎のニーズを把握する必要があると考えられます。「持続可能な地域公共交通」を展開するには、地域の住民の力が必要であるのではないのでしょうか。「地域の住民が創り、守り、愛し続ける」ことが重要であります。

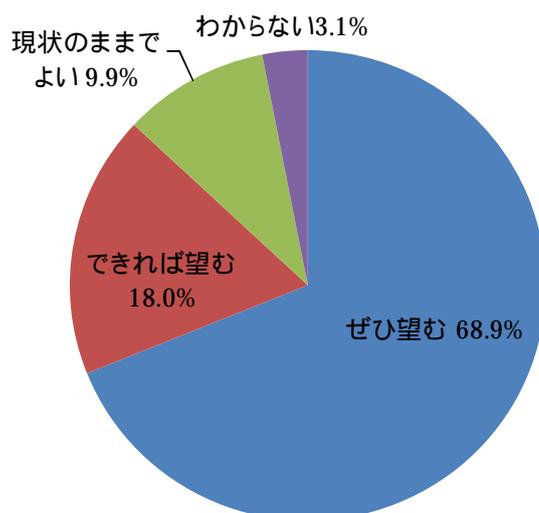
そのためには、「地域の路線を創る！守る！愛する！会」などの自発的な活動が不可欠であります。



問3 バス運行の大幅な見直しを望むか。

選択肢	回答数	%
1. ぜひ望む	111	68.9%
2. できれば望む	29	18.0%
3. 現状のままでよい	16	9.9%
4. 見直しは無理	0	0%
5. わからない	5	3.1%

（回答者 161）



【調査結果】

バス運行の大幅な見直しを望むかについて尋ねたところ、「ぜひ望む」が 68.9%と最も多く、「できれば望む」を含むと 86.9%で約 9 割近くが「見直し」を望んでいることが伺えます。



これから何が見えるか

バス利用者の約 9 割が「見直し」を望んでいるのも、現在、非常に厳しい運営状況の中で、事業者としては減便や改編などを行わなければならない、負のスパイラルとなっているからであります。また、生活様態の変化により、モータリゼーションが進んだことも原因のひとつであります。

今後は、発想の転換により、10 年先 20 年先を考えながら、「交通対策」から「交通まちづくり」という考え方が必要であります。

モータリゼーションとは？

モータリゼーション (motorization) とは、自動車が大衆に広く普及し、生活必需品化する現象である。英語で「動力化」「自動車化」を意味する言葉である。

日本では、1964 年の東京オリンピックの直後からモータリゼーションが進んでいった。道路特定財源制度等を使った高速道路の拡張や舗装道路の増加等の道路整備、一般大衆にも購入可能な価格の大衆車の出現、オイルショック後の自動車燃料となる石油低価格化などによって、自動車が利用しやすい環境になったことが原因であろう。